

令和4年度病害虫発生予報第7号（10月）

令和4年10月3日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	吸実性カメムシ類	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 9月下旬の水田におけるミナミアオカメムシの発生量はやや多い 10月の気温は高い	± + +

・防除対策

〔ダイズ・吸実性カメムシ類〕

ダイズの吸実性カメムシ類の発生量は平年並ですが、一部地域で発生が多いほ場が確認されています。また、今後収穫後の水田からダイズほ場に移動し、加害する可能性があります。ほ場におけるカメムシ類の発生状況をよく確認し、適宜防除を行いましょう。

・留意事項

9月下旬の巡回調査において、トビイロウンカ成虫（長翅型、短翅型）及び幼虫が本田で確認されました。トビイロウンカがほ場に定着している場合、今後、坪枯れが発生する可能性があります。ほ場での発生状況に注意し、収穫が近いほ場で坪枯れや坪枯れの初期症状が確認された場合は、できるだけ早く収穫しまししょう。

イネ白葉枯病の病原菌は、被害わらやもみで越冬し、次作の発生源となります。また、ニカメイガやイネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカは、水田畦畔の雑草やひこばえで越冬します。越冬量を減らすため、収穫後の耕うんを始めとする、秋期管理を実施しまししょう。詳細は、本日発表の「水稻の秋期管理情報第1号」を参照してください。

県内のダイズほ場に設置したフェロモントラップにおいて、ハスモンヨトウの誘殺数は平年と比較してやや少なく推移していますが、名古屋地方气象台9月29日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高い見込みで、チョウ目害虫の発生に好適な条件が

続きます。ほ場全体を注意して見回り、発生を確認したら、適宜防除を行いましょ。う。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ナシ	黒星病	平年並	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない 10月の降水量は平年並が多い	－ ±～＋
カキ	炭疽病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の降水量は平年並が多い	＋ ±～＋
カキ ウンシュ ウミカン	カメムシ類	平年並	県全域	予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 9月下旬のカキにおける被害果 率は平年並	± ± ±

・防除対策

〔カキ・炭疽病〕

「富有」のほ場を中心にカキ炭疽病の発病果が確認されています。ナリアWDGやスコア顆粒水和剤などで防除しましょう。

なお、早生品種などで収穫期に入っている園もありますので、農薬散布の際は、収穫前日数や、周囲の状況に十分に注意しましょう。

・留意事項

ナシ黒星病が発生しているほ場では、次作への伝染源を減らすため、落葉をほ場外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

ブドウべと病が発生しているほ場では、次作への伝染源を減らすため、落葉をほ場外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

モモせん孔細菌病の発病葉が目立つほ場があります。次作への伝染源を減らすため、秋期防除を実施しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ハクサイ	べと病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の降水量は平年並が多い	± ±～＋
	コナガ	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	± ±
	ハイマダラノ メイガ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の気温は高い	± ＋
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない	－
キャベツ	黒腐病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 強風を伴う降雨があった 10月の降水量は平年並が多い	± ＋ ±～＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	オオタバコガ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 10月の気温は高い	± ± +
	コナガ	やや少ない	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	- ±
	シロイチモジ ヨトウ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 10月の気温は高い	± ± +
	ハイマダラノ メイガ	多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の気温は高い	+ +
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	黄化葉巻病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い	+
	コナジラミ類	多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の気温は高い	+ +
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	炭疽病	多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 7月下旬の育苗ほでの発生量は 多かった 10月の気温は高い	+ + +
	ハダニ類	平年並	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない 10月の気温は高い	- +
野菜共通	ハスモンヨト ウ	やや多い	県全域	9月下旬のキャベツにおける発 生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 10月の気温は高い	± ± +

・防除対策

[ハクサイ・べと病]

シグナムWDGやランマンフロアブルなどで防除しましょう。

[ハクサイ、キャベツ・ハイマダラノメイガ]

成長点部分を食害されると、正常な結球が望めなくなるため、エルサン乳剤やヨーバルフロアブルなどで防除しましょう。

[キャベツ・黒腐病]

降雨が予想される場合は、降雨前後に予防のために銅剤等を散布しましょう。

[キャベツ・オオタバコガ]

オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数はおおむね平年並ですが、気温が高くなると予想されており、本種の発生に好適な条件となりますので注意しましょう。防除対策については8月2日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

[キャベツ・シロイチモジヨトウ]

プレオフロアブルやヨーバルフロアブルなどで防除しましょう。中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期に防除しましょう。

[トマト・黄化葉巻病、コナジラミ類]

本日発表の「コナジラミ類情報第1号(トマト)」を参照してください。

〔イチゴ・炭疽病〕

7月下旬の巡回調査（育苗ほ）では発生量がやや多い状況でした。発病株や隣接する株は速やかに抜き取って、ほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。また、8月2日発表の「令和4年度病害虫発生予察注意報第4号」を参考にしてください。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期に防除しましょう。キャベツは9月16日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参考にしてください。

・留意事項

アブラナ科野菜の黒腐病、軟腐病等の細菌性病害は、降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は病原菌の侵入口となるので、激しい風雨によって傷ができた場合や、害虫の食害痕が多い場合も発生を助長します。台風14号、15号の影響により、強風を伴う降雨や冠水等の被害が出た地域があります。このようなほ場では、今後、多発する可能性があるため注意しましょう。また、台風等の悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	野菜類のフェロモントラップにおける誘殺数は平年並 10月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 10月の気温は高い	± +

・防除対策

〔キク（露地）・ハスモンヨトウ〕

ブロフレアSCやマッチ乳剤などで防除しましょう。

〔キク（露地）・オオタバコガ〕

オオタバコガは例年、10月に発生量が多くなります。着蕾期以降に食害を受けると被害が大きくなるので、早めの防除を心がけましょう。8月2日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台9月29日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、平年並の確率50%です。

3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：30% 高い：50%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%